

甲府西高 2年次だより



ハーフタイムの過ごし方

ちょうど今、スポーツのビッグイベント：ラグビーW杯が日本で開催されていますね。日本代表もロシアに順当勝ちしてさい先の良いスタートを切り、先日は世界ランキング2位のアイルランドに逆転勝ちという見事な成果を挙げました。史上初のベスト8進出に向けてさらに頑張っ欲しいところです。

さてラグビーもそうですが、**ハーフタイムのあるスポーツは、これをきっかけに前半と後半で大きく流れが変化することがあります。**前半劣勢だったチームが後半息を吹き返し、見事に大逆転勝利なんていう展開は見ている者をハラハラ・ドキドキさせるスポーツの醍醐味といってもいいでしょう。実際、今回のアイルランド戦で、日本代表が9-12で折り返した後半そんなミラクルを見せてくれました。では、**なぜそのような奇跡とも思えることが起こるのでしょうか？それはハーフタイムの過ごし方にあるといえます。**ハーフタイム中やるべきこと主に2つです。1つは前半のプレーで出た問題点や修正すべき点を洗い出し、後半に向けた作戦を立てること、もう1つはリフレッシュです。これがピタリとはまった時、そのようなミラクルが起こるのである。

いよいよ2年次の後期がスタートし、みんなの高校生活も残り半分となりますが、**修学旅行を控えた今はさしずめハーフタイム直前**といったところでしょうか。ハーフタイムに向けて前半の課題の洗い出しはどうですか？後半戦に向けての作戦は立てられていますか。**ラグビーも受験も、時間と戦うところは一緒です。**ノーサイドの笛が吹かれるまでに、自分自身の用意した戦略をいかに遂行できるかどうか、**勝利の鍵はハーフタイムの過ごし方**にかかっているのではないのでしょうか。



修学旅行特集第2弾：佐喜眞美術館

沖縄県宜野湾市、現在移設問題で揺れる普天間飛行場の隣にこの美術館があります。1994年11月、館長の佐喜眞道夫氏が、米軍「普天間基地」にとられていた先祖代々の土地を取り戻して建設した美術館です。一番の見所は、常設展示されている「沖縄の地上戦」をテーマに描かれた丸木位里・丸木俊夫妻の作品『沖縄戦の図』です。3つの展示室の中の一番奥、最も広い展示室の正面に掲げられた巨大な絵の前には、椅子が3つ置かれており、「じっくり座って見てください」と書かれています。佐喜眞館長はこの場を「もの想う空間」と名付けています。事実、この絵の前に座ってみていると、実に多くのことを語りかけている絵だと分かります。また、沖縄の建築家・真喜志好一による独特なコンクリート打ち放しの建物は、6月23日「慰霊の日」の日没線に合わせ、最上段の窓から太陽の光が差し込む構造になっているそうです。さらに、屋上の階段は6段と23段で構成される等、建物にも工夫が凝らされています。この機会にぜひ訪ねてみてはどうでしょう。

【10月の予定】

日	曜	主な行事	日	曜	主な行事
1	火	B 後期始業式・報告会 短縮55分授業 自転車ステッカー点検週間、(球技大会予備日)	17	木	B
2	水	B 健康の森ウォーキング大会事前健康相談	18	金	B 短縮45分授業、報告会・生徒総会 修学旅行事前健康調査
3	木	B	19	土	新人大会
4	金	B	20	日	新人大会
5	土	土曜講座	21	月	A きずなの日、短縮50分授業、大掃除
6	日		22	火	即位礼
7	月	A きずなの日	23	水	A
8	火	A 生徒協議会	24	木	A 授業公開
9	水	行 健康の森ウォーキング大会、PTA 役員会	25	金	A
10	木	A (健康の森ウォーキング大会予備日)	26	土	
11	金	A 第2回生活実態調査	27	日	
12	土	土曜講座	28	月	B
13	日		29	火	B
14	月	体育の日	30	水	B 台湾教育使節団来校
15	火	B	31	木	B 冬季原付免許取得説明会
16	水	A			

保護者のみなさまへ

定期試験も無事終わり、いよいよ2年次の後期が始まります。残暑の厳しかった9月を経て、気候の方もだいぶ秋らしくなってきました。9日(水)には第23回健康の森ウォーキング大会が、また24日(木)には秋の授業公開があります。そのような機会を通じて生徒達のいきいきとした様子をお目にかけることができたいと思っています。

さて、来月には来年度の履修科目を本登録いたします。進路に関して、もう一度御家庭でよく話し合い、お子様の意思を確認しておいてください。

【先生方からの寄稿】

今年度も、各クラスの担任・副担任の先生方からの寄稿を6回連続で掲載いたします。トップバッテリーは1組の担任・副担任の先生方です。

「『新しい地図を描け!』」

1組担任 今津 彩

こう見えて私はアウトドア派なんです。中学3年生の時には韓国の済州島で、高校1年生の時にはイギリスのブラウンシー島で、様々な国籍の同世代の子たちと1週間ほどキャンプをしました。朝食とって渡されたのが虫が頭を出しているりんご1つだったり、それをイギリスの子たちが何気なくむしゃむしゃ食べていたり、夜中テントで寝ていたらアメリカの子が急襲してきて「夜中にする hide and seek は最高だから一緒にやろ!」と言ってきて一晩中付き合ったり、山梨の片田舎で育ってきた私には非常に刺激的な経験でした。

こんなことを思い出したきっかけは、去年の現代文の教科書です。先日必要がありひっぱり出したら、去年の4月に学習した『新しい地図を描け!』という評論が目飛び込んできました。“世界の見方を描き表したものが地図だ。世界がつまらなく見えるのは、誰かが勝手に作った地図を押しつけられるがまま受け取って、それで世界を認識しているからだ。新しい時代を生きる若者たちよ、新しい地図を描け! (=新しいやり方・価値観で世界を捉えろ!)”という主旨でした。覚えていますか?

私は入学直後のみなさんに、「西高は自由なところだよ」「色々なことに思い切り挑戦してごらん」ということを伝えたくてこの教材を選びました。しかし今読み返して、西高での生活が18ヶ月経った今だからこそ見えてくるメッセージに気づきました。

それは、パラダイムシフトの必要性です。私たちは長くいるとその環境に慣れてしまい、多少のことには目を瞑ってしまいます。ですが中沢新一さんは我々に呼びかけています。あたりまえを無批判に良しとせず、その壁を壊していけと。みなさんはこの18ヶ月を振り返ってみたとき、あたりまえの壁をどれだけ壊していくことができましたか。

中高生の私にとって、海外の子たちと交流することは自分の価値観を作り替えるよい機会でした。また、部活動で知り合った有名大系列校やT大進学トップ校の友人たちからは、立っている場所の違いを突きつけられました(KG高校の時間割には「フランス語」の授業があり、そもそも見えている世界が違うことを痛感させられました)。いずれの場合にも、自分のいる世界とそうではない世界とのズレを見つけることが第一歩でした。そしてそのときには志を共にする仲間がいました。

さて、西高生活も残り17ヶ月です。2年次のみなさんが西高において何を為すか、心から楽しみにしています。



漫画「ハイキュー!!」をご存知ですか

1組副担任 平岩 岳実

現在、週刊少年ジャンプで連載されている、単行本最新刊が39巻まで発売されているバレーボール漫画です。私はこの漫画が大好きで、家には当然全巻揃っており、ハイキュー!!グッズもいくつかあります。ジャンプを立ち読みしながら泣いてしまったこともありますし、1時間は平気でハイキュー!!ネタを語れます。バレー部に入部してくる男子で「ハイキュー!!」を読んだことがない生徒がいますが、必ず読むことを勧めます。マネージャーで入ってくる女子生徒は大概「ハイキュー!!」ファンなので、「誰推し」か聞いて盛り上がります。また、西高の男子バレー部の部室には単行本が揃っています。私が大人買いをしました。(5年前、長野で勤務した高校のバレー部の部室にも買い揃えて置いてきた)

極めつけは、うちの息子「大知(だいち)」の名前。烏野高校バレー部のキャプテン「澤村大地」から取りました。(奥さんも「ハイキュー!!」ファンなのでOK!)

今津彩先生も好きで単行本を読んでおり、幾度となくハイキューネタで盛り上がりました。志村かおり先生の職員室の机には日向と影山のポストカードが挟んであるので、かおり先生もファンらしい。

その「ハイキュー!!」の中で最も好きなセリフは「苦しい もう止まっちゃいたい そう思った瞬間からの一歩」です。本編で何度か登場してくるフレーズですが、主人公が窮地に立たされても、果敢に挑戦していく様子を描いたものです。これは普段の生活にも言えると思います。

→ ちょっと体がだるいから学校を休んでしまいたい からの「一歩」

→ この問題さっぱり分からない もう勉強を止めてしまいたい からの「もう一題」
そんな少年漫画に元気を貰いながら、私は日々の仕事を頑張っています。

